る、「おとなの童話」といつたようなもので、近代的な小説ではない。種類からいえば唐の「傳奇」とおなじである。書いた人は山東のいなかの學者で、蒲松齡(一六三〇—一七一五)——この人はなんど役人の試驗を受けても落第したので、ひまを見てはこんなふしぎな話しを集めて氣をまぎらした。

六三——現代中國の文學　中國は一九一二年(日本の大正元年)から共和國になり、いろいろの方面で改革がおこなわれた。清朝の政府は、倒れる前の數十年間、政治のやりかたが悪かつたので、國民はもちろん役人のなかにも、「これではならない」と考える人が多くなつた。まして、役人にもなれないで苦しい生活をしている文化人たちは、じぶんの意見を小説の形で發表して、心の不滿をなぐさめた。

西洋の科學書や小説を飜譯する人もあらわれた。すでに明の末から、天主教の宣教師が中國に來て、天文や數學の書物を漢文で出版し、一八四〇年のアヘン戰爭のあとには、キリスト新教の宣教師や各國の外交官、商人などが來て、西洋の技術や思想を傳えた。中國人のがわでも、廣東出身の學者康有爲(一八五八—一九二七)は、一種の世界國家思想を發表し、その門人

の梁啓超(一八六九—一九二九)は日本の横濱で雜誌をだし、むかしからの文章を改良することを試みた。

中國では一千年以上も前から、唐の「變文」や宋の講談本のように、大衆的な口語體または それに近い文體で書いものがあり、また宋の「詞」や元の「曲」、明の長編小説など、文學としてもりつぱなものがありながら、およそ正式の文章は古典的な文語體でなければならないと考えられてきた。古典的な文語體(日本人のいう「漢文」)は、時代や場所に關係のすくない、一種の共通語であるから、字を見ればいつの時代のどこの人にも、だいたいの意味はわかるという便利がある。しかし、ふだん話す言葉とはまつたく建てまえのちがつた特別の書き言葉であるから、書くときにも讀むときにも頭のなかで一ぺん飜譯しなければならない。そのうえ、フチョウを使つてものをいうのだから、どうも氣もちがピッタリしない。そこで日本がやつたように「：ナリ。：ケリ」をやめて「：である。：だつた」にしようという運動がおこつた。

この運動を「文學革命」とよんだ。アメリカに留學していた胡適(一八九一—)が一九一七年にはじめてそれをとなえた。「心のともつたことをいおう。むかしの人の口まねはやめよう。すじの通つた文を書こう。わざと悲しそうなことをいうのはやめよう。お座なりな表現はやめ

よう。故事熟語のセンサクはやめよう。文句を對にするくせをなおそう。日常の口語をどしどし使おう」というのである。胡適の同志の陳獨秀（一八七九—一九四〇）は、そのうえさらに、「お飾りやおべつかの多い貴族文學、字の使いかたばかり氣にして、情熱と寫實のない古典文學、わかりにくくて大衆の役にたたない山林文學をやめよう」といつた。この運動には學生や教師の大部分が賛成したので、民國の政府もその氣になつて、一九二〇年からあと、小學校の教科書では文語體をやめて口語體にした。「漢文」は中學以上で學ぶことになり、小學校では「國語」だけになつたのである。教科書ばかりでなく、學者の書く論文も口語體になつてきた。

新聞の記事や廣告、日常の手紙や書類には、あいかわらず文語體が用いられたが、文學作品は小說も評論も戲曲も詩も、みんな口語體になつた。「文學革命」のスタートのときに、魯迅（本名は周樹人、一八八一—一九三六）のような教養の高い文學者が、「阿Q正傳」その他の名作を發表したことは、たいへんつごうがよかつた。阿Qというのは、君主政治から共和國に移る時代の中國人の、自覺のないすがたを示すためにもちだされた、ひとりの日やとい人夫で、頭のなかはカラツポのくせに、むやみと人を見くだしたり、人におだてられてあばれたりする、とまつた人物である。

魯迅のほかにも、北京大學を中心にして「文學研究會」を作つていた人たちや、上海に「創造社」を組織していた日本留學あがりの人たちが、小說その他の創作や、外國文學の紹介を熱心にやつたので、中國の文學界は非常に近代化され、第二次大戰までにはたくさんの雜誌や單行本が出た。新しい劇も研究され、上演されていた。映畫も盛んになつた。

戰爭前に名の出た作家をあげてみると、長編小說または多量の短編を書いた作家としては茅盾（一八九六—）、葉紹鈞（一八九三—）、沈從文（一九〇二—）、巴金（一九〇五—）、老舍（一八九八—）などがあり、劇作家には田漢（一八九七—）、曹禺（一九一〇—）、批評家には周作人（一八八五—）郭沫若（一八九三—）、林語堂（一八九五—）らがある。丁玲（一九〇七—）は進步的女作家として知られ、外人ではあるがパール・バック（中國育ち）が「大地」その他の小說を書いてノーベル賞をもらつた。

第二次大戰後の中國は社會主義の方向に大きく動き、一九四九年に中華人民共和國ができると、民衆を中心にした文藝が研究され、創作されるようになつた。三十年前の「文學革命」は思想內容はもちろん、文體の點でも不滿足なものとして批判されている。中國の書き言葉は漢字を使つているが、漢字だととかく耳で聞いてもわからないむつかしい文章をつくりがちであ

る。そこで、なるべくすくない漢字で、だれにもわかる文章を書くことが心がけられるようになつた。また、いままで民間に打ちすてられていた歌や芝居を取りあげて、見なおすことにもなつた。作家には新人の趙樹理(ちょう)その他があり、丁玲ら戰前からの人たちも引きつづき活動している。

練習問題(一)解答

一 「吾」
二 「女」(女ではなく「汝」の古い形)
三 「而」忘…。「而」父。
四 「彼」「我」「吾」「彼」
五 「他」(かの)——(孤と寡はここでは代名詞でない)
六 「己」(自は「…より」の意味で、ここでは代名詞でない)
七 「己」「己」(ここの「女」はほんとの女で、汝ではない)
八 「卿曹」(きみたち)
九 「執事」「左右」(どちらも「あなた」の意味)
一〇 「吾兄」「弟」(豐氏も趙氏も現代の中國人だから、これは現代の漢文である)

練習問題(二)解答

一 あんたのホコで、あんたのタテを突いてみたら、どうだね?
二 人はきまつてじぶんをバカにし、それから他人にバカにされる。
三 あなたさまがここにいらしたからには、わたしがお目にかかれないこともありますまい。
四 近キハコレヲ身ニ取リ、遠キハコレヲ物ニ取ル。
五 管仲はその殿さまゆえに權力者になり、晏(アン)子はその殿さまのおかげで名が出た。

六　目上を犯したがらないのに、騒動を起こしたがるもの、そんなのはまだないな。
七　じぶん（皇帝）はこの身に天命を授かり、わが身ひそかに悲しんでいる。
八　小僧め見こみがあるわ。五日あとの夜あけに、わしとここで會え。
九　項羽は紀信を見ていう、「劉邦どのはどこにいる？」
一〇　つかえごとはどれが大事か？　親につかえるのが大事だ。守るのはなにが大事か？身を守るのが大事だ。

練習問題（三）解答

一「孟子」「梁」「惠王」　二「漢」　三「管仲」、「鮑叔」　四「張」「汝士」「堯夫」「開封」「襄邑」
五「波茨坦」（ポツダム）「美」（アメリカ）「羅斯福」（ルーズヴェルト）「蘇」（ソ連）「斯塔林」（スターリン。また史大林とも書く）「英」「邱吉爾」（チャーチル）「艾德禮」（アトリー）「德國」（ドイツ）

練習問題（四）解答

一「謂」（大丈夫）　二「非」（魚）　三「則」（寡人之罪）
四「亡」（幾何人）　五「爲」（難養）

練習問題（五）解答

一「誠」「是」　二「之」　三「若」
四「大」「細」「小」　五「小大之」　六「饑」「餓」

七「紅」「南」「幾」　八「多少」　九「斯」
一〇「夫・二」

練習問題（六）解答

一「再」　二「大抵」「皆」　三「大凡」
四「既」「盡」　五「當今之世」（副詞相當語）　六「立」
七「有時乎」　八「須臾」　九「無」
一〇「奚」

練習問題（七）解答

一「於」　二「於」（「見愛於…」は「…ニ愛セラル」）
三「於」　四「以」「以」
五「微」（「ナカリセバ」と讀む）　六「賴」「…のおかげで」）
七「以」　八「爲」「爲」
九「與」（ここでは「於」とおなじ用法）　一〇「自」「自」

學生教養新書
漢文の學び方
定價金百七拾圓

昭和二十八年五月十日　印刷
昭和二十八年五月十五日　發行

著者　魚返善雄

發行者　東京都新宿區拂方町二七　佐藤正叟

印刷者　東京都北區上中里町一五三　倉澤直男

發行所　東京都新宿區拂方町二七　至文堂
電話九段(33)一四一五番
振替口座東京二九五〇七番

双文社印刷

日本圖書館協會選定圖書
學校圖書館協議會推薦圖書

學生教養新書

全五十卷

青春の日々は、將來の人間形成の大體が決定される尊い季節である。悔いなき人生のため全身の熱情をそのために献げねばならぬ。高遠の理想を追うて、正しい慧智と、豊かなる感情に滿ちみちた人たるべき道が探求されねばならぬ。そのため書物を讀もう。文學や美術や映畫・音樂等の藝術を味わおう。信念のための史觀や人生の問題を探求しよう。時事問題に的確な判斷を持つ訓練をしよう。ところでこれ等の理解や、享受や、探求や、訓練に際して自ら正しき方法がなくてはならない。本新書はその行路を導いてくれるものである。まことに本新書によつて諸氏の青春は輝き充實する。

—既刊—

漢文の學び方　東京大學講師　魚返善雄著　價二〇〇圓　送二四圓

漢文は學校の教科目や入學試驗は勿論社會人の教養としても能率的な學習が要望されている。本書は漢文の歴史や本質・國語國文との關係等を平易に解說し、學習者にも教授者にも役にたつように書かれている。根本的に漢文の眞相をとらえた好著である。

短歌とは何か　歌人　吉野秀雄著　價二二〇圓　送二四圓

—短歌の作り方と味ひ方—

これから歌を作ろうとする人、すでに作つていても自作の進歩を望む人、作らなくても味わい方だけは知りたいと思う人、すべてにこの好著の一讀を奬める。具體的なわかりやすい叙述のうちに籠る著者の高くはげしい短歌愛の情熱は、何人の心をも搖り動かさねばやまぬであろう。

英語の學び方　東京大學教授　朱牟田夏雄著　價一五〇圓　送二四圓

教養につながる英語の學び方が現代に生きた英文を入れて具體的に示され、更にこれから英文學を讀み始めようと志す學徒に對し、懇切なその手引も意圖されてある。これから大學教育を受けようとする者或は既にその過程にある者に絶好の參考書。殊に大學入試受驗者必讀の名著。

近代の世界史　東大教授文博　山中謙二著　價二〇〇圓　送二四圓

詩を讀む人のために　詩人　三好達治著　價二二〇圓　送二四圓

本は如何に讀むべきか　國立國會圖書館長　金森德次郎　價一四〇圓　送二四圓

レポートの書き方　東京大學講師　吉田精一著　東京大學教授　黑川純一共　東京大學教授　沼野井春雄共　價一五〇圓　送二四圓

文學の讀み方　文藝評論家　龜井勝一郎著　價一四〇圓　送二四圓

古典の讀み方　東大教授文博　池田龜鑑著　價一七〇圓　送二四圓

演劇とは何か　演劇評論家　千田是也著　價二三〇圓　送二四圓

—戲曲・演出・鑑賞—

音樂の歴史と聽き方　藝術大學講師　辻荘一著　價二〇〇圓　送二四圓

美術の歴史と見方　學習院大教授　富永惣一著　價二〇〇圓　送二四圓

映画の技術と見方　映畫監督　吉村公三郎著　價一八〇圓　送二四圓

—續刊—

ラジオの聽き方　NHK社會部長　片桐顯智著

學生運動　東京大學教授　木村健康著

世界文學の學び方　東京大學教授　竹山道雄著

小說の讀み方　作家　阿部知二著

俳句の味い方と作り方　文藝評論家　山本健吉　俳人　平畑靜塔著

時事問題の見方　NHK解說課主幹　館野守男著

國史の學び方　東京教育大學教授　家永三郎著

哲學とは何か　京都大學教授　西谷啓治著

話しことばの學び方　東京大學講師　中村通夫著

新聞の讀み方　朝日新聞社參與　渡邊紳一郎著

倫理的なものの考え方　東京文理大教授　大島康正著

以下二十六卷　B6判　價各百圓乃至二百五十圓

内容見本呈

廣島大教授文博　齋藤清衛著

徒然草の新しい解釋　二〇〇圓　送三二圓

廣い學識と深い思索とによつて徒然草に新しい解釋を施した書。しかもその說明は平明で懇切を期し、語句の解說のみならず、文法語法の說明を加え、思想方面の考察も深く行屆いている。中學・高校生必携の良參考書。

學習院大學教授　岩田九郎著

奥の細道の新しい解釋　一八〇圓　送三二圓

最も平易で最も詳しい奥の細道の解釋書。短かい語句ももらさず細かに說明し、長い章節も懇切に註釋を施している。難解で問題となる箇所は殊に精細に研究して明確な解答を與えている。必備の良參考書。

東大教授文博　久松潛一著

古今集の新しい解釋　近刊

東大教授文博　久松潛一著

新古今集の新しい解釋　近刊

東大教授文博　池田龜鑑著

枕草子の新しい解釋　近刊

大阪女子大學教授　山崎喜好著

俳論・俳文の新しい解釋　近刊

名古屋大學教授　高木市之助著

平家物語の新しい解釋　續刊

東京教育大教授　佐伯梅友著

更級日記の新しい解釋　續刊

東大教授文博　齋藤清衛記　都立日比谷高校教諭　增淵恒吉　學習院大學助教授　大野晋　共著

古典解釋の文法

三月三十日發賣　豫價一五〇圓

古典が確實な文法體系に基いて合理的に解釋されるということは、生徒の學究欲を滿足させるばかりでなく、古典に對する信賴と愛着の念を植付けるためにも是非必要なことである。

本書は先に好評を得た時枝博士著「古典解釋のための日本文法」(日本文學教養講座第十四卷)を、高等學校の生徒の使用に適するやうに、更に平明に書き改めたものである。橋本學說・時枝學說の相違を示してその得失が明快に說かれているから、專門家にも一讀を薦める。特に今日の如き檢定教科書時代に於て、入學試驗を考慮せられる教員各位並びに學生諸君にとつては必讀の良書である。

本書の特色

◇本書は現下の古典解釋の水準を示す指導書である。
◇本書は學者と現場との協力とによつて著わされた。
◇本書は古典解釋の基礎的な讀解方法を示した。
◇本書は用例・例題等を、新制高校の古典學習資料となり得るものから選んだ。
◇古典の解釋に特に重要な文の構造については餘す所なく觸れた。
◇本書は特に助詞・助動詞について詳說した。
◇本書は新制高校一年程度の學力をもつて容易に理解出來る。

日本文學物語

全三十六卷

文學博士 藤村作 東大教授文博 久松潛一
文學博士 志田義秀 東大教授文博 池田龜鑑
國學院大教授文博 武田祐吉 大阪女子大學長 平林治德
文學博士 島津久基 東京教育大教授文博 能勢朝次
共譯

1 古事記
2 風土記・靈異記
3 萬葉集
4 伊勢・大和物語
5 竹取物語
6 宇津保物語
7 落窪物語
8 源氏物語 上
9 源氏物語 下
10 枕草子
11 蜻蛉日記 上
12 蜻蛉日記 下
13 大鏡
14 堤中納言物語
15 今昔物語
16 保元・平治物語
17 平家物語
18 西行・實朝一代物語
19 太平記
20 增鏡
21 徒然草
22 義經記
23 曾我物語
24 謠曲物語
25 お伽草子
26 西鶴名作集
27 近松世話物集
28 竹田出雲名作集
29 假名手本忠臣藏
30 芭蕉一代物語
31 蕪村一代物語
32 一茶一代物語
33 雨月物語
34 椿說弓張月
35 默阿彌名作集
36 紅葉・露伴名作物語

各冊定價 230 圓 (送32圓)

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

inches 1 2 3 4 5 6 7 8

cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black